

T・Tマニュアル【算数・数学編】

○活動 □立ち位置「」発問例

段階	T1	T2								
つかむ	①前時の学習内容を確認する □黒板前 (児童生徒のつぶやきや前時のノート記述から) ②問題の提示 □児童生徒の中 (わかっていること、求めること、単位の確認等) ③既習との違いを確認する □児童生徒の中 「前回と違うところは何ですか」 (①や掲示等と比較して考えさせる) ④つぶやきから、本時の課題を設定する □児童生徒の中 「今日は何を学習しますか(課題は何ですか)」	①前時の学習内容を板書する □黒板前 ②問題を板書する □黒板前 (確認箇所には線を引く)  ③T1の発問の補助をする □黒板前 (思考に沿って、該当箇所を指し示す) ④T1がまとめる課題を板書する □黒板前								
考える	⑤問題を個人で考えさせる □児童生徒の中 ・必要に応じて「見通し」や「作戦」を立てる (立てすぎ注意：自力解決を大切に) ・予め予想していた考え方を書いている子に、黒板掲示用のホワイトボード等に考えを書かせる ・式、図、言葉で考えを書かせる ・複数の考え方に組みませる ・考えがまとまったら近くの子と交流させる	⑤「見通し」や「作戦」を板書する □黒板前 → □児童生徒の中 ・机間指導をして、つまずいている児童生徒を集めたり、ヒントカードを渡したりする ・つまずいている児童への指導が終わったら、T1が把握している考え方以外の考え方を持つ児童生徒を探す 								
深める	⑥ペアやトリオ→全体(必要な学習形態)で課題を解決していく(練り上げていく) □児童生徒の中 【練り上げの視点※1】 ・場面を広げて考える ・相違点を見いだす ・共通点やきまりを見いだす ・根拠を明らかにする ・良さを見いだす <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 児童生徒の思考をつなぐ  </div>	⑥児童生徒の説明やつぶやきを黒板やホワイトボードに書き込んでいく □黒板前 ・課題とまとめをつなぐキーワードを拾う <div style="border: 2px solid blue; padding: 10px; margin-top: 10px;"> ~練り上げの極意~ ①正答だけでなく、誤答を生かし理解を深める※2 ②考えを書いた子ではなく、別の子に発表させる </div>								
まとめる	⑦課題と正対したまとめをする □児童生徒の中 ・課題と同じ主語を意識する 「まとめの主語は何になりますか」 ・児童生徒に自由に発言させ、つぶやきを拾ってまとめていく ⑧適用問題に取り組む □児童生徒の中 ・基本問題・応用問題を用意する 	⑦まとめを板書する □黒板前 ・T1がまとめたことを板書する ⑧適用問題の丸つけをする □児童生徒の中 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> T1は主につまずいている児童生徒への指導を中心に行う </div>								
振り返る	⑨振り返り □児童生徒の中 ・本時の課題や評価につながる振り返りをしている児童生徒を意図的指名する ⑩次時の予告 □黒板前 ・本時の頑張りを認めるとともに、次の時間に学びたいことを引き出したり、投げかけたりする (単位時間で区切らず、単元を通して学ぶ意識)	⑨振り返りの視点を掲示する □黒板前 → □児童生徒の中 ・本時の課題や評価につながる振り返りをしている児童生徒について、T1と共有する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 振り返りの視点 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="font-size: 2em;">ま</td> <td>まねしたいな友達の考え</td> </tr> <tr> <td style="font-size: 2em;">つ</td> <td>次は何に役立てようかな</td> </tr> <tr> <td style="font-size: 2em;">ぶ</td> <td>今日は何を学ぶことができたかな</td> </tr> <tr> <td style="font-size: 2em;">し</td> <td>もっと知りたいなこんなこと</td> </tr> </table> </div>	ま	まねしたいな友達の考え	つ	次は何に役立てようかな	ぶ	今日は何を学ぶことができたかな	し	もっと知りたいなこんなこと
ま	まねしたいな友達の考え									
つ	次は何に役立てようかな									
ぶ	今日は何を学ぶことができたかな									
し	もっと知りたいなこんなこと									

※1 練り上げ場面における発問例

- ・「～さんの考えをどのように活かそうですか」 ・「～さんの良いところはどこですか」
- ・「～さんの考えはどういうことですか」 ・「どの考え方にも共通しているところは何ですか」

※2 誤答を扱う場合の留意事項

県学調では、誤答をもとに、「なぜ間違いなのか」を説明する問題が扱われています。誤答を扱うことで、児童生徒のつまずきをなくすとともに、分かったつもりになっている児童生徒の理解を深めることができます。しかし、誤答により分かりかけていた児童生徒が余計に混乱する場合があります。扱う際には、十分留意が必要です。また、児童生徒が誤答について学習の理解を深める良い考えであるという認識を持てる学級経営が基本となります。